

年度評価シート

課名 観光・MICE推進課

施設の名称 静岡市清水港船宿記念館	指定管理者名 公益財団法人するが企画観光局
1 履行状況	
<p>令和4年度は、指定管理期間（令和3年度から令和7年度までの5年間）の2年目である。指定管理者は前期間から引き続き指定管理業務を担っている。</p> <p>指定管理業務は、業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。</p>	
<p>(1) 維持管理業務</p> <p>建築物及び建築設備の保守点検、施設内の清掃等を日常的に実施したほか、専門的な知識又は技術を必要とする「警備業務」、「ねずみ、衛生害虫防除業務」等の維持管理業務を第三者に委託して実施した。修繕については、本市と協議の上、「階段手摺」及び「多目的トイレ換気扇」の修繕を行った。</p>	
<p>(2) 施設入館者数</p> <p>令和4年度の入館者数は7,350人で、指定管理期間最終年度である令和7年度の目標値18,000人に対して達成率40.8%、年度目標値15,000人に対して達成率は49.0%で、いずれも達成できなかった。（※参考：令和3年度入館者数4,330人、年度目標値14,000人、達成率30.9%）</p> <p>前年度比では入館者数は3,020人（69.7%）増だが、新型コロナウイルス感染症流行前の平成31年度（15,498人）比では52.6%減と、回復には程遠い現状にある。要因として、感染拡大の波や客船の寄港停止によるインバウンド旅行者の減少の影響が大きいと考えられる。しかし、前年まで中止となっていた「清水みなと祭り」や「日本平ウォーク」等のイベントや、地域の小中学校の校外学習、客船寄港の一部再開により、特に下半期は入館者数の復調が見られたことから、今後は更なる入館者増を期待したい。</p>	
<p>(3) 事業実施状況</p> <p>展示及び各種関連事業については、一部のイベントを除き事業計画書に従って適正に実施されている。当初開催を予定していた英語教室、新茶教室、次郎長ウォーク等の事業については、感染症対策等を理由に中止を余儀なくされたが、他方、前年度に引き続き静岡県舞台芸術センター（SPAC）による朗読劇や、当初年間事業計画になかったプラモデル制作体験イベントの開催など、創意工夫し誘客を図る様子が見られた。通年展示のつるし飾りについても、好評であった。</p>	
<p>【令和4年度の主な主催事業】</p> <p>ア 清水の新茶を楽しむ（4/29～5/22）</p> <p>イ 次郎長命日限定イベント（6/12）</p> <p>ウ ミニ七夕笹飾り（7/2～7/7）</p>	

<p>エ 末廣縁日（1回目7/16～7/17、2回目8/10～8/21、3回目9/17～9/19）</p> <p>オ プラモデル体験（9/17、参加者5人）</p> <p>カ 干支の置物作り（12/9～10、参加者10人）</p> <p>キ 次郎長巷談（12/14・17、参加者16人）</p> <p>ク SPAC朗読劇『鮫講釈』公演（1/7、参加者14人）</p> <p>【令和4年度の主な展示事業】</p> <p>ア つるし飾り展（通年） 「雛祭りつるし飾り」、「端午の節句つるし飾り」、「日本の祭りつるし飾り」等</p> <p>イ 端午の節句飾り展（4/21～5/29）</p> <p>ウ 敬老の日によせた古布の人形展（9/1～9/30）</p> <p>エ 柳原良平氏原画展示（4/1～9/14、12/20～3/31）</p>
<p>2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）</p> <p>指定管理業務に対する苦情等は特段なかったが、アンケートの意見欄では、施設運営や展示内容に対し、「スタッフの親切な対応」、「建物の魅力」、「展示内容」等について肯定的評価がある一方、様々な意見が寄せられており、こうした意見に対し、継続的な運営の検証及び改善に取り組んでもらいたい。</p> <p>【令和4年度の主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2階の人形が怖かった。 ・ 市内在住でも、施設の存在を初めて知ったので、より広く広報をした方がよい。 ・ 次郎長のことを良く知ることが出来た。
<p>3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価</p> <p>(1) 利用者満足度調査</p> <p>施設利用者に対して通年で「建物・設備」、「案内」、「展示内容」について満足度調査を行った結果、全体として92.4%が「とてもよかった」、「よかった」と回答しており、前年度の88.8%に比べるとやや増加となり、引き続き高い水準を保つことが出来ている。（令和4年度内訳：「建築・設備」満足度：93.5%、「案内」満足度：89.6%、「展示内容」満足度：94.3%）</p> <p>(2) 市民アンケート</p> <p>課所管5施設（東海道広重美術館、由比本陣施設、清水港船宿記念館、坐漁荘記念館、三保真崎グラウンドゴルフ場）で実施しているアンケート調査によると、施設の認知度は18.2%と昨年度（19.4%）を下回ったことから、認知度向上が大きな課題である。近隣地域における認知度向上、次郎長の功績の発信、日本家屋の建築物としての魅力発信、校外学習の場として活用など、PRの強化だけでなく、その方法の工夫にも期待したい。</p>
<p>4 指定管理者の経理状況の評価</p> <p>指定管理業務の収支状況については、概ね予算のとおり執行されており良好である。</p>
<p>5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）</p>

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

本施設は「清水港周辺地区の地域振興及び観光交流の場」であるとともに、「清水の次郎長所縁の施設として地域の歴史文化を発信する場」と位置付けられており、日の出地区における観光や歴史の重要な発信拠点である。

今後、感染流行前の来館者数への回復基調に十分乗り切れていない現状を分析し集客に向けた取組を工夫する必要がある。特に、来館者アンケートからみえるリピーターの割合の少なさは課題の一つとして認識する必要がある（令和4年度来館者アンケートによると、回答者の84.8%が初回来場者）。

また、若い世代に歴史的に価値のある地域資源を再認識する機会として学校の校外学習利用に繋がる営業活動を進める他、地域での認知度向上への取組も必要であろう。

次郎長生家や梅蔭禅寺といった次郎長関連施設との連携はもちろんのこと、指定管理者自身が地域ブランドの価値向上をはじめとする観光振興を担う団体であることを鑑み、観光や歴史の発信拠点として、本施設の機能を高めるための取組をより一層推進することを期待する。